

法皇山脈と赤星山



小富士小学校の南、四国中央市を東西に貫く法皇山脈。1453mの赤星山、「おといこさん」で有名な豊受山、カタクリの花で有名な鋸山、菜の花やコスモスで有名な翠波峰などが連なる。

法皇山脈の名前の由来は、平安時代、白川法皇が京都に寺院を建立する際に、宇摩地方のこの山から献上した木材が非常に優れていたということで、「法皇」の名をつけることを許されたという説をはじめ、諸説残されている。



「みどりの大地 青い空 赤星のみね せとの海」と小富士小学校の校歌にも歌われた標高1453mの赤星山。「伊予小富士」の別名を持ち、「小富士」という地名の由来になっていると云われる。

5月の連休にはカタクリの花が咲き、冬には、きれいな雪景色も楽しむことができるなど、四季折々のすばらしい風景を見せてくれる。

その名の由来は、いくつか説がある。

≪「赤星山」名前の由来（その1）≫

養老4年（720年）伊予の国司 越智玉澄が大山祇神をお迎えした時、赤星山の北側の土居の町の沖で激しい風が吹き、舟が転覆しそうになった。そこで、赤星山の東側にある豊受山に向かって祈ると、豊受山の西にある山の山頂に火の玉が現れ、赤い星のように海を照らすと、激しい風が収まった。それ以来赤い星の現れた山を赤星山、海を火映灘（現在は燧灘）と呼ぶようになった。

≪「赤星山」名前の由来（その2）≫

夏にさそり座の一等星アンタレス（赤い星）が赤星山の山頂に輝くことから、赤星山と呼ぶようになった